

第三号 2019年6月

広島大学定期戦/九大杯/春練総括

# 九大道友会報

## 広島大学定期戦

### 戦績

#### 国際ルール

九大	4		6	広大・岡大
清水	○	合わせ技		シマニスキ
井出本		背負い投げ	○	守田
近藤		内股	○	靄本
天野		内股	○	下山
綾	○			森政
當山		合わせ技	○	八幡
川本	○	合わせ技		久志
小谷		大外刈り	○	堂本
正木		大外刈り	○	成松
末次	○	片羽絞め		坂東

2年の當山です。今年の広大戦は3月13日に広島大学で行われました。結果としては国際ルール、七帝ルール共に敗れてしまいました。詳しい戦績等はホームページに乗っているのをごらんください。チームとしては負傷者が多い中ではありましたが、七帝ルールでの敗戦はとて悔しい結果となりました。反省点が個人個人見つかったと思うので今後の練習に活かしていきたいと思います。次に個人的な話になってしまいますが、今回の交流戦で私は試合では初めての勝利をする事が出来ました。少し舞い上がってしまい、次の試合ではあっさり取られてしまったので結果としては引き分けとあまり変わりませんが、試合で勝ったことの無い私にとってはとても大きな経験になりました。



写真:七帝ルール 當山-久志

#### 七帝ルール

九大				広大・岡大
井出本		引き分け		森政
清水		引き分け		シマニスキ
天野		引き分け		八幡
綾		引き分け		守田
當山	○	腕十字		久志
		横四方	○	坂東
近藤		引き分け		
川本		合わせ技	○	靄本
小谷		縦四方	○	
正木		大内刈り	○	
末次		引き分け		
				成松
				堂本
				下山

そして、午前の交流戦の後、午後には広島大学・岡山大学と合同稽古を行いました。普段はあまりしない立ち技中心の練習で、いつもと違う人達との練習はとても新鮮で気合のより入った練習になりました。また、広島大学の練習は寝技乱取りも多くあり、日頃の練習で培ってきたものを試せたり、新たな課題が見つかったり、とても有意義な練習になりました。練習が終わった後は広島大学の方々にレセプションを開いて頂き、交流を深める事ができました。今回の交流戦で見つかった課題を、立ち技・寝技共に今後の練習に改善していきたいと思います。

當山金太郎

写真左:練習後集合写真  
右:レセプション焼肉にて





# 九大杯

九大杯担当の3年綾です。第24回九大杯争奪高校生柔道大会が伊都キャンパス道場にて3月21日に行われました。今年は12校、約100人の高校生に参加して頂きました。福岡の高校はもちろん、佐賀・長崎からも参加して頂きました。活力のある高校生の試合はかなり面白く、運営している部員達もワクワクする様な試合ばかりでした。また、寝技の時間を普段の国際ルールよりも長く取っているため、寝技で積極的に攻める選手が多かった様に感じました。結果は男子優勝が佐賀北・鳥栖高校、女子優勝が修猷館高校Aでした。おめでとうございます。

また、試合後には高校生向けの寝技研究会を行いました。現役部員からの技術の講習を行い、高校生に実際に技を練習してもらいました。そして、研究会後は寝技乱取りを行い、高校生に混じって現役部員も練習を行いました。

そして、最後には高校生との懇親会を行いました。最初に現役部員からプレゼンを行い、九大柔道部の紹介をしました。その後、現役部員が高校生に混じって会話をし、学生生活や受験勉強など様々な話題の話をして、高校生との親睦を深めることが出来ました。

今回参加していただいた羽田野会長を初めとしたOB役員の皆様、運営に携わって頂いたOBスタッフの皆様ののおかげで今年も無事開催することが出来ました。心より御礼申し上げます。  
綾健太

# 春練総括

主将の4年末次です。今年の春休みを振り返ってみると、春合宿から始まり、トヨタ自動車に勤められている七帝OBの方々との合同練習、広島・関西遠征（広大定期戦と寝技練成会、他大学との合同練習）、九大杯など多くのイベントがあり、忙しくも充実した期間であった。

寝技練成会では六大学との練習試合を通して練習の成果を発揮し、多くの収穫があった者もいれば、逆に課題や修正点ばかりが見つかった者もいた。東京大、東北大との試合で惨敗してしまい、選手全員が身をもって一人ひとりの役割の重さを感じたことだろう。また、主将の立場としてはオーダーの重要性を強く感じた試合であった。これらの試合からチームとして取り能力が低だけでなく、失点が多く一歩間違えば一気に抜かれてしまう守りの甘さが大きな課題であると思った。今年の九大は他大学のように上級生や取り役が何人もいるわけではないため、奪えるところでもらった少ないリードを守りきる戦法で七大戦を戦うことになる。よって、各々が自分の役割を理解し、それを果たせるかどうかということがこれまで以上に重要な勝負の鍵となる。

七大戦までは3ヶ月を切り、練習にもより一層熱が入ってくるだろう。また、これからは新入生も加わり、チームとしての活気も出てくると思う。七大戦まで残された短い期間、選手・マネージャーが一丸となって練習に取り組んでいきたい。  
末次善紀

# 春期写真



写真：広島大学定期戦  
京都遠征より